

《資料》

部落解放研究関係文献目録

(一九八四年七月～九月)

【現状】

東京都産業労働会館業務課『かわとはきもの』(同上、9月)

【行政】

南野昭雄「京都市同和行政の現状と課題」

(『部落問題研究』七九号、7月)

渡辺久丸「新法下の同和行政の見直しと研究の課題」(同右)

末長 正「(現地報告)基地の町・岩国市における同和行政の確

立めきして」(『部落』四四八号、8月)

山村彦也「(動向)行政・鳥取県における部落問題をめぐる動き」

(同右)

大阪府同和事業促進協議会『同和行政入門』(同上、8月)

磯村英一編『同和行政論Ⅳ 意識・環境・農村・自治』

(明石書店、9月)

【運動】

《特集》「部落の雇用対策をどうすすめるか」

(『部落解放』二一六号、7月)

部落解放同盟中央労働対策部「部落の労働対策の現状と課題」

《資料》「労働省職業安定局長通達」

但同和地区人材雇用開発センター事務局「同和地区人材雇用
開発センター」

嶋谷幸辰・宮田貴美子・荒本留一「(熱と光の会座談会)あ
とに続く人のためにも」

部落解放同盟兵庫連声屋支部「芦屋での仕事保障のとりく

みー部落解放労働事業振興会を中心に」

野山小夜子「仕事保障のなかで一歩ずつ」

小川 登「アメリカにおける差別撤廃の人為的行動政策―部
落住民の雇用創出への問題提起」

上杉佐一郎・平野一郎・谷口修太郎・(司会)村越末男「(座談

会)現代日本と部落解放」(同右)

橋本 要「ヘグラビア」狭山事件で『逆さ吊り』実験」(同右)

本田 豊「えん罪―狭山事件前史―③川口署婦女暴行デッチあげ

事件」(『狭山差別裁判』一二七号、7月)

藤谷義兼「京都市の改良住宅実質値上げ問題」

〔『解放の道—理論・政策・資料版』六号、7月〕
 高田 徹「住宅改良事業における家賃問題—住民アンケートによる家賃決定」〔『解放の道—理論・政策・資料版』六号、7月〕
 丹波正史「国民的融合をめざす部落解放運動」
 〔『部落問題研究』七十九号、7月〕

《特集》「部落解放と婦人の活動」〔『部落』四四六号、7月〕

柄崎博孝「部落の婦人の当面する問題」

山本康子「東京の靴産業における婦人の実態」

川建ふみよ「本音で話し合うことから—全解連岡山・高梁市協婦人部のとりくみ—」

山本梅子「下関市における交流学習会」

谷本みや子「正しい運動を広げるなかで仲間がふえる—高知市朝倉支部のとりくみ—」

宮本トモ「全国婦人交流会成功をステップに—地元三重県のとりのくみ—」

小川早苗「アイヌ民族の誇りをもって—第九回部落解放全国婦人交流会に参加して—」

山路靖子「視野を広げ、自らきたえる中でこそ—第九回部落解放全国婦人交流会に参加して—」

全解連大阪府連浪速支部「〈現地報告〉『差別落書き』を『教材』に—『解放教育』のいきつくところ—」〔同右〕

兵庫県人権共闘会議「『八鹿・朝来暴力事件』の控訴審に向けて真実を広めるために—ビデオ『八鹿からあなたへ』の活用を—」〔同右〕

〔『月刊部落問題』九三号、8月〕

大塚秀之「『人種差別撤廃条約』と国民的融合論」〔同右〕

〔資料〕①地対協意見具申②岡山市住宅資金問題に対する県解連の見解」〔『部落問題』五一号、8月〕

野間 宏「狭山裁判第一〇三回—異議申立の棄却決定批判(39)」〔『世界』四六五号、8月〕

門田陽一「『解同』の糾弾」を批判した地対協「意見」

〔『赤旗—評論特集版』三七八号、8月〕

部落解放同盟大阪府連合会『活動家通信第19号 差別事件糾弾闘争の強化と狭山差別事件上告書』〔同上、8月〕

丹波正史「人種差別撤廃条約と部落問題—『解同』の『部落解放基本法』制定要求に関して—」

〔『赤旗—評論特集版』三八一号、9月〕

部落解放同盟中央本部「『地対協』意見具申に対するわが同盟の見解」〔『部落解放』二一八号、9月〕

〔資料〕「地域改善対策協議会意見具申—今後における啓発活動のあり方について」〔同右〕

中山武敏「重大局面を迎えた狭山特別抗告審」〔同右〕

《見て歩いて確かめて—狭山現地調査のてびき》

〔『狭山差別裁判』二一九号、9月〕

《特集》「座談会・部落解放運動の現状と二十一世紀への道」

〔『解放の道—理論・政策・資料版』八号、9月〕

海川道郎「吹田『解同』三暴力事件控訴審判決の意義」

〔『部落』四四九号、9月〕

野間 宏「狭山裁判第一〇二回—異議申立の棄却決定批判(38)」〔『世界』四六四号、7月〕

部落解放同盟兵庫県連合会「第24回兵庫県婦人集会」〔同上、7月〕

上杉佐一郎「(刑冠旗)今日における人権闘争の課題」

〔『部落解放』二一七号、8月〕

大賀正行「大阪の『同促協』方式について—『窓口問題』の解決と部落解放同盟の質的発展をめぐる—」〔同右〕

《特集》「いまこのヤマ場に—」

〔『狭山差別裁判』二一八号、8月〕

〔資料〕世論で最高裁をつつも—特別抗告審の経過と現状

吉元成治「態勢づくりしつかりと—」

本田 豊「えん罪—狭山事件前史—④練馬署愛子さん殺しデッチあげ事件」〔同右〕

村崎勝利「組織建設の意義といくつかの留意点」

〔『解放の道—理論・政策・資料版』七号、8月〕

成沢栄寿「部落解放運動の動向」〔『部落』四四七号、8月〕

杉之原寿一「地対法」の折り返し点に立って」〔同右〕

〔資料〕「部落問題をめぐる主な動き(略年表)」〔同右〕

金崎 是「部落のヒバクシャ三十九年のたたかい—広島市福島町に生きる—」〔『部落』四四八号、8月〕

村崎勝利「(動向)運動・部落解放要求貫徹全国闘争を開始」〔同右〕

村上 保「篠山町『差別落書き』事件のその後の経過」

〔『月刊部落問題』九四号、9月〕

電田順一「〈連載〉八鹿・朝来事件控訴審にむけて(4)」〔同右〕

《狭山闘争と部落解放運動の現局面》

〔『新地平』一一七号、9月〕

〔聞き手〕渡辺哲郎「狭山再審闘争の現局面と課題—部落解放同盟小森龍邦書記長に聞く—」

藤元昌弘「狭山差別裁判糾弾闘争の新段階」

師岡佑行「部落解放運動の当面する問題点は何か」

大石治男「『地対協意見具申』のねらうもの—糾弾闘争の否定と融和攻撃—」

藤沢靖介「運動破壊の『同和』行政打ち切りと足立区の解放運動」

永井孝道「世界宗教者平和会議に向けて—宗教者の責任と役割」

〔『曹洞宗報』五八八号、9月〕

野間 宏「狭山裁判第一〇四回—異議申立の棄却決定批判(40)」

〔『世界』四六六号、9月〕

小森龍邦「部落解放運動と労働運動」

〔『社会主義』二三〇号、9月〕

大阪府同和地区医療施設連絡協議会『医療連結成15周年記念』

〔同上、9月〕

部落解放同盟中央本部「『地対協』意見具申に対するわが同盟の見解」〔同上、9月〕

藤元昌弘編『冤罪狭山事件』(現代書館、9月)

狭山事件再審弁護団『自由崩壊—狭山裁判20年』
(日本評論社、9月)

【理論】

- 《特集》「統」国民的融合論』批判と部落史研究」
(『部落解放研究』四〇号、7月)
大賀正行「国民的融合論批判と部落解放理論(補遺)」
編集部「部落解放研究文獻目録」(同右)
馬原鉄男「部落解放理論の再検討」
(『部落問題研究』七十九号、7月)
村崎勝利「(動向)運動・第13回部落問題全国研究会開かる—
国民的融合論提唱十年目の総括—」(『部落』四四六号、7月)
杉之原寿一「戦後部落解放理論の展開」
(『部落問題論究』九号、7月)
河村望「資本主義社会と差別問題」(同右)
杉之原寿一「創立10周年を迎えて」
(『月刊部落問題』九二号、7月)
(資料)「目でみる10年」(同右)
住井すゑほか「研究所と私」(同右)
岩田健三郎「変わるもの変わらぬもの」(同右)
杉之原寿一・小林末夫・平井晃・西脇忠之・鳥飼慶陽「座談会
『研究所設立前後のこと』」(同右)
(資料)「兵庫部落問題研究所略年表」(同右)
(資料)「兵庫部落問題研究所10年の実績(出版物と実態調査)」

(同右)

- (資料)「『月刊・部落問題』総目次(創刊号〜91号)」(同右)
(資料)「紀要・部落問題論究総目次」(同右)
(資料)「一九八四年度事業計画」(同右)
清 目・丹生谷哲一「京都部落史研究所第六回総会報告」
(『こへる』八〇号、8月)
《一九八三年度の部落問題—成果と課題》
(『部落』四四七号、8月)
奥山降夫「部落解放理論をめぐる今日状況」
(資料)「一九八三年度部落問題研究所定期誌総目次」
(『部落』四四七号、8月)
北川隆吉「(動向)研究・新しい前進のための整理—杉之原寿一
部落問題著作集の刊行によせて—」(『部落』四四八号、8月)
部落問題研究所編『21世紀を展望した部落解放運動』(中西義雄
部落問題著作集3)(同上、8月)

【解放教育】

- 三吉鉄児「福岡市における高校奨学生進路の実態と進路保障の
課題」(『部落解放』二二六号、7月)
《特集2》「第33次全国教師神戸集会第18分科会(日教組第33次
・日高教第30次教育研究全国集会)」
(『解放教育』一八一号、7月)
小沢有作「第18分科会基調提案」
市川正昭「さらなる組織的な努力を」

林 忠良「この子らととも」

藤野勝子「先生、よろしくお願ひします」といわれて」

竹村雅夫「先生、わからぬ」

村瀬恵津子・中嶋 健・丸山美智子・越智勇二・本山 修

「総括討論から」

山中多美男・寺沢亮一・(司会)中村弘三「座談会—解放教育は
何に直面しているか—部落解放同盟第40回大会を終えて」
(同右)

《誌上シンポジウム—第二次教育制度検討委員会最終報告によ
せて—》「現代日本の教育改革」を検討する④「第二次報告」
の各論を読む(同右)

藤枝淳子「性差別と女子教育の課題」

永野 仁「平和・軍縮教育の発展のために」

矢野 洋「解放子ども会から」

上田敏幸「広がれ子育ての輪」

(『解放の道—理論・政策・資料版』六号、7月)

坂本久幸「国民融合めざす『子ども会活動』」(同右)

石田真一「戦後初期同和教育史の検討」

(『部落問題研究』七十九号、7月)

三枝茂夫「同和教育行政民主化のたまたか—『埒同教』問題を焦
点にして—」(『部落』四四六号、7月)

佐古田好一「(動向)教育「人権と文学の教育」研究東京集会の
成果」(『部落』四四六号、7月)

石田真一「連載・部落の青春—遠く国」

(『月刊』の子も伸びる』八七号、7月)

東上高志「講座・同和教育の実践(第4回)—その実践のポイン
ト① 低学力の克服」(同右)

《特集》「乳児の仲間づくり」(『はらっぱ』二八号、7月)

玉置哲淳「乳児の集団づくりの視点とすじみち」

早川勝広「乳児の『原仲間』関係」

あすか保育所「親子交流」

磐池保育所、「一歳児グループ」あひる組、一年の歩み」

磐池保育所二歳児グループ「うさぎ組、一年の歩み」

山中多美男「おやじの子育て日誌」(同右)

源 勁一「目先の利益は教育の原点を見失わせる—豊中・庄内西
小学校問題の経過から」(『労働調査時報』七四一号、7月)

村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか第4回—
全同教の発表と高知県弘岡中学校事件の教訓」(『学校運営研
究』一八五号、7月)

大阪府同和教育研究協議会「平和・人権8・6〜8・9登校一闘
いにたちあがった子どもたち」(同上、7月)

《特集》「話しことはと学校文化」

(『解放教育』一八二号、8月)

小林初枝「被差別部落の生活とことば」

大沢敏郎「今私が見たがでてきたので。」

金城 実「沖繩語が逆転するとき」

前平泰志「生きること・学ぶこと・闘うこと」

(資料)「詩—せんせい／おんがくかい／まけ／しゅっち

「お父ちゃんが仕事にいった」
松本健男「現在における『私学訴訟』の意義——大阪高裁判決を
迎えるにちたつて」(同右)

藤沢正子「心をひらきまほうラポール」(同右)

中山広一「子どもたちの心が開くとうとうと」(同右)

中川福督「『生活』と『もの』と味と——面積・体積の正体をさ
ぐる」(同右)

福地幸造「雑事のこと」(同右)

中山豊子「『にんげん』実践／『おかあさんのメモ』(四年)

——わが子の声を一度でも」(同右)

梅田修「『解同』の『反差別共同闘争』と障害児教育」

(『解放の道——理論・政策・資料版』七号、8月)

東上高志「今日にふさわしい同和教育の実践を」

(『部落』四四七号、8月)

みゆきてつ・東上高志「劇画『仲間たち』」(同右)

同院研事務局「(動向)教育・第36回同院研全国集会」

(『部落』四四八号、8月)

石田真一「連載・部落の青春——入学試験」

(『月刊』の子も伸びる』八八号、8月)

東上高志「講座・同和教育の実践(第5回)——その実践のポイン
ト」(『教師と親のスクラム』(同右)

近藤善爾「岡山県『同和教育』審議会答申の分析と批判」

(『部落問題』五一号、8月)

立石憲利「県教委主催の『同和教育』研修会に参加して」(同右)

課題」

《誌上シンポジウム》第二次教育制度検討委員会最終報告によせ
て「現代日本の教育改革」を検討する⑤ 誌上シンポジウム
への提言》(同右)

野本三吉・大塚俊雄・李仁夏・遠藤幸子・梅原達也・竹内
良知・保坂展人・李相鎬「各界からの感想」

梅老原治善「第二次教育制度検討委から答える」

渡久山長輝「日教組の側から」

中川福督「緊急レポート—近畿統一応募用紙改善を許すな」

(同右)

(資料)「第8回大学同和教育研究会報告」

(『部落』四四九号、9月)

東上高志「講座・同和教育の実践(第9回)——その実践のポイン
ト」(『月刊』の子も伸びる』八九号、9月)

石田真一「連載・部落の青春——神話」(同右)

大同啓五「子ども・青年の自立をどうはげますか」

(『月刊部落問題』九四号、9月)

笠間小学校「肩をくむPTAと学校—ゆたかな人間性をもとめ
て」(部落問題研究所、9月)

森山浩一「部落解放教育の地域的形成—自己教育の生成と展開」

(明石書店、9月)

岸本裕史「すべてのごとに確かな学力を 小一年篇」

(部落問題研究所出版部、9月)

藤原利昭「〈新連載〉子どもの学力保障をどうする—できない子
どもはいない—」(同右)

大阪府同和教育研究協議会「ひき裂くものと対峙して」

(同上、8月)

原田嘉男・勝川周男・衣笠博明「世直れのうた—ムラに支えられ
た教師たちの記録」〈解放教育選書17〉(明治図書、8月)

東上高志「同和行政の進展と教育」〈東上高志同和教育著作集
10〉(あゆみ出版、8月)

《特集》「読本『にんげん』実践の世界」

(『解放教育』一八三号、9月)

《読本『にんげん』を読む》

田中克彦「新しい『文化方言』の試み」

戸塚 廉「すべての人や地域に」

〈「にんげん」実践に期待する〉

田村賢一「部落解放運動の立場から」

池田武明「日教組の立場から」

〈「にんげん」実践の記録〉

阪本郁夫「水俣から」

下田利知子「ブラクとはちがうということ」

木村久美子「劇づくりを通して」(『子ども作品展』

仁田博史・紺屋良一・新田義和・稲垣有一・蔵本穂積・桂正
孝「座談会」『にんげん』実践を求めて」

川元祥一「『にんげん』実践の基礎理論—部落史に学ぶもの」

全国解放研事務局「資料・『にんげん』改訂の意義と実践の

大阪同和保育連絡協議会「研究園のあしあと」(1) 一九八一年
度—一九八二年度地域に根ざした保育を」(同上、9月)

【人権】

ライサ・ハルフィナ「(海外研究動向) 婦人の平等—ソ連ではこ
こまで進んでいる」(『部落解放研究』四〇号、7月)

《特集1》「今こそ地域・学校に平和教育を」

(『解放教育』一八一号、7月)

〈平和教育への提言〉

西川 潤「軍拡競争時代の人権」

長浜 功「現代教育と戦争責任」

宮地和夫「被爆者の思いに連なつて」

李仁夏「『寄留者』の立場から」

梅林宏道「核トマホークが問う民衆の政治責任」

〈平和教育実践の軌跡から〉

東淀川解放教育共闘会議「反戦教材『ながら』の誕生」

下原隆資「原爆教育から反戦・反核・反差別の教育に」

〈平和教育理論の探究〉

中川保雄「反原発教育のすすめ」

植山芳弘「平和教育と社会科教科書の検定」

《特集》「直撃インタビュー—今、県政をどう進めるか」

(『青い海』一三三号、7月)

《特集》「男女雇用機会均等法」

(『季刊労働法』一三二号、7月)

有泉 亨「男女雇用平等法の背景とその問題点」
 奥山明良「男女雇用機会均等法とその実効性確保の手段」
 中島通子「女子保護規定緩和の論点と法的検討」
 三浦豊彦「男女雇用機会均等法と女子労働者をめぐる労働衛生の諸問題」
 (特別資料)「『男女雇用機会均等法』および『婦人労働』に関する報告書・法案・判例等」

《マスコミと人権》(『新聞研究』三九六号、7月)
 清水英夫「マスコミの自浄能力と人権」
 内田剛弘「守られるべき人権実現すべき人権」
 伊藤 齊「報道と人権」——私の所感——
 〈人権を考えるために〉
 伊藤雅子「意識下の性差別に目ざ」
 青木 悦「人間が見えてくるのか」
 赤松 岳「報道されない自由と権利」
 岡留安則「芸能界の論理と市民社会の現実」

〈弱者〉の人権は、いま〈
 斎藤茂男「企業に縛られる父親たち」
 明石志行「老人の痛みを正しく伝える責任」
 寺崎一雄「疎外される『いじめっ子』の人権」
 早瀬圭一「ノンフィクションをなぜ書くか」
 〈各国にみる「報道と人権」〉
 橋本正邦「アメリカ 損害賠償を警戒する報道界」
 庭山英雄「イギリス 法廷侮辱による厳しい報道規則」

浅野健一「スウェーデン 徹底した犯罪報道匿名主義」
 天野勝文「プライバシー保護立法とマスコミ」
 前沢 猛「記者の職業倫理綱領」
 編集部「第24回紙面審査全国懇談会」
 《特集》「技術革新と婦人労働者」
 (『賃金と社会保障』八九三号、7月)
 富沢賢治「現代技術革新と国民生活の展望」
 木元進一郎「ME下の婦人労働者の課題」
 嶋津千利世「技術革新下の婦人労働——婦人労働者の要求の視点——」

伊藤セツ「『国連婦人の十年世界会議のためのESCAP地域政府間準備会議』に出席して」
 《特集》「少数者の正義をもとめて」
 (『福音と世界』三九卷九号、7月)

《スウェーデンの平等法》(『月刊婦人展望』三四一号、7月)
 「平等オンブズマン インガブリット・トネル女史に聞

《特集》「パート労働を問う」(『月刊労働組合』二〇八号、7月)
 大羽綾子「雇用の男女平等に関するECの最近の立法と判例法紹介——人権を守るための国際協力の効果を考えよう——」
 (『世界の労働』七号、7月)
 薬師寺公夫「ヨーロッパ人権条約準備作業の検討(中)」
 (『神戸商船大学紀要 第一類 文科論集』三三三号、7月)
 山中郁子「真の男女雇用平等法には何が必要か——日本共産党・革

新共同の『提案』を中心に

(『赤旗—評論特集版』三七三号、7月)
 ハンシャーコブ・シュテール、永井清彦(訳)「元ナチはなぜローマを経て南米へ向かったか①—「ラット・ライン」から逃げたのはただのネズミではなかった」
 (『朝日ジャーナル』一三三〇号、7月)
 ハンシャーコブ・シュテール、永井清彦(訳)「元ナチはなぜローマを経て南米へ向かったか②—国際赤十字が発行した奇妙な旅行証とそれを保証した法王救援委員会」
 (『朝日ジャーナル』一三三二号、7月)
 松本 勝「仮釈放の適正な運用」
 (『法律のひろば』三七巻七号、7月)

市雄 貴(聞き手)「共産党の介入で『原水禁』はどうなるか—吉田嘉清代表理事に聞く」
 (『朝日ジャーナル』一三三〇号、7月)
 前田利郎「『情報公開』住民勝訴の思わぬ波紋—過剰反応・自治体が情報管理強化」(『エコノミスト』二五七六号、7月)
 広島県「原爆被爆者対策事業概要」(同上、7月)
 鶴見区人権啓発推進会「定住外国人の人権」(同上、7月)
 北海道ウタリ協会「アイヌ民族に関する法律制定についての陳情書」(同上、7月)
 戦争の記録を残す高槻市民の会「わが街たかつきの戦争の記録、資料集No.3 特集高槻の空襲統・地下軍事工場」(同上、7月)
 山田彰道「非望——ある中国残留孤児」

(『解放教育』一八二号、8月)

金東 勲「人種差別撤廃条約批准のために②」
 (『社会啓発情報』二〇号、8月)
 李君・孫君を囲む会事務局「ようやく門戸開放—郵便外務職『差別』国籍条項撤廃」(同左)

(資料)「アフリカ難民問題の真の解決に向けて—第2回アフリカ難民援助国際会議における北川外務政務次官の演説全文」
 (『月刊国連』六三巻七号、8月)
 高橋展子「国連と婦人—国際理解のための婦人セミナーにおける講演から—」(同左)

《特集》「人権シンポジウム」

(『地方自治通信』一七七号、8月)
 全国人権擁護委員連合会「マスコミとプライバシー」
 《特集》「役所のなかの市民名簿」

(資料)「『自由と正義』三五巻・九号、8月」
 (資料)「『役所のなかの市民名簿』—一覧表—名称/法令等の根拠/内容/収集方法/利用状況」
 制作・編集部「〈架空鼎談〉『役所のなかの市民名簿』調査結果をみて—個人情報保護を考える素材として—」

横田耕一「情報公開制度としての個人情報保護制度——福岡県春日市の事例を中心に」
 (資料)「春日市個人情報保護条例全文」
 鈴木映和「電算による住民情報処理その実際と問題点——この10年の実績から」

神谷威吉郎「人権大会・人権シンポ・司法シンポ」
(『自由と正義』三五巻・九号、8月)

《特集》「国際婦人年最終年を前に」

(『季刊女子教育』二〇号、8月)

高橋展子「議長席から見たエスカップ婦人会議」

渡辺華子「エスカップ・民間の立場から政府に望む」

中下裕子・林陽子「対談・お粗末極まりない雇用均等法」

石田玲子「国籍法にとりくんで」

駒野陽子「家庭科はいま」

福田三津夫「家庭科の現場から」

司会・奥山えみ子「座談会・一〇年めを迎えた女子教育もんだい」

《特集》「在日朝鮮人と外国人登録法」

(『季刊三千里』三九号、8月)

田中 宏・金達寿・新美 隆「鼎談・外国人登録法をめぐ

つ」

金東 勲「人種差別撤廃条約と在日朝鮮人」

梶村秀樹「指紋捺捺拒否の歴史」

魏良 福「在日世代にとって指紋捺捺は」

山本真弓「インド人移民と在日朝鮮人」

文京 洙「在日」についての意見」

大沼保昭「在日朝鮮人と出入国管理体制」

李相 鎬・徐正禹・鄭炳燾・玄和男・金徳煥・梁泰昊・孫永律「地域運動の中から『在日』を考える」(同右)

磯貝治良「ふたつの民族の血―戦後日本文学のなかの朝鮮」
(同右)

《特集》「男女雇用均等法」(『ジュリスト』八一九号、8月)

浅倉むつ子・下井隆史・菅野和夫・中島通子・花見 忠「均

等待遇の法的課題へ座談会」

渡辺 章「男女雇用均等法案と女子の時間外・休日・深夜労働」

奥山明良「男女雇用均等法案と母性保護規定」

桑原靖夫「雇用平等立法の効果と限界―欧米の経験に学ぶもの」

《女性と憲法》(全国憲法研究会)

金城清子「婦人差別撤廃条約にみる男女平等権と日本国憲法」

柴田悦子「雇用平等法」と女性労働―保護と平等」

横田耕一「女性差別と憲法」

江橋 崇・辻村みよ子「全国憲法研究会シンポジウム―討論の概要と問題点―」

チカップ美恵子(新連載)「アイヌの文化と歴史をさぐる―レラ・コラー風のよう」(『新地平』一一六号、8月)

《特集30》「均等・平等・保護」(『あこら』八九号、8月)

伊東すみ子「結果の平等と機会の均等―竹中論文をめぐって」

久場嬉子「『実質的平等』と労働市場の差別的構造」

金谷千慧子「労働者保護法変遷史に見る母性保護」

インガーブリット・トーネル「スウェーデンの男女平等法と

井下田猛「現代国家・地域論12―プライバシー保護条例策定の検討課題」(『月刊自治研』二九九号、8月)

雲母初江「婦人研究者の待遇を急げ」

(『赤旗―評論特集版』三七七号、8月)

犬養道子「世界の孤児になるのか・日本」

(『文芸春秋』六二巻九号、8月)

A・M・ムボウ(きき手)安江良介「エネスコへの批判に答える」(『世界』四六六号、9月)

松岡三郎「連載・トビック労働講話(完)―職業差別への『反乱』」(『学習のひろば』二七一号、9月)

手塚和彰「西ドイツ労働事情・判例展望(1)―職員と労働者間の法的差別―その1」(『判例時報』一一二二二号、9月)

国連ナミビア理事会第二常任委員会「南アフリカのナミビア支配―国連報告書(軍事情勢報告・社会情勢報告)にみる」

(『世界政治―論評と資料』六七六号、9月)

森田俊男「D・ゲンダーヌの生涯とたたかひの意義」

(『歴史地理教育』三七一号、9月)

日本弁護士連合会「日本弁護士連合会第27回人権擁護大会へシン

ポジウム第一分科会〈基調報告レジュメ・接見交通権の確立をめざして〉(『自由と正義』三五巻一〇号、9月)

近藤昌彦「国際青年と我が国の取り組み」

(『社会教育』四五九号、9月)

池内尚郎「指紋捺捺拒否する在日外国人―心に墨は塗らせな

い」(『月刊社会党』三四一号、9月)

オンブズマンの機能

(資料)「第七〇回ILO総会で採択された勧告―『雇用政策に関する勧告』」(『世界の労働』三四巻八号、8月)

富塚三夫「反核・軍縮・平和―行動する22人委員会」

(『月刊社会党』三四〇号、8月)

村上義雄「世代を超える映画『侵略』の衝撃―加害者としての日本人」(『朝日ジャーナル』一三三四号、8月)

服部 啓「世界の焦点・労働」ECの男女雇用平等―社会的条件の整備を図る」(『月刊総評』三三〇号、8月)

稲葉三千男「日本の焦点・社会」差別のなかの差別―男女平等を考へる」(『月刊総評』三三〇号、8月)

山内 薫「障害者サービスの基本的な考え方―『障害者サービスをはじめのために』第一章」

(『みんなの図書館』八七号、8月)

三浦正晴「戸籍法の改正について」

(『法律のひろば』三七巻八号、8月)

土屋文昭「国籍法の改正について」(同右)

堀部政男「情報公開とプライバシー保護(上)」

(『法律時報』六八六号、8月)

三井マリ子「OECDが問う男女雇用平等―先進工業国の大勢から遅れた日本」(『エコノミスト』二五七九号、8月)

遊川和良「ヘルポルタージニ」広島に脈うつ平和の闘い―原点を

広げつつける被爆二世労働者たち」

(『月刊労働組合』二〇九号、8月)

村岡公夫「無実の人を救うために再審法の改正は急務—あいつぐ再審無罪判決と共産党の改正案」

(『赤旗—評論特集版』三二八号、9月)

吉永 宏「青年を歴史の主役に—動き出した国際青年の年」

(『月刊社会教育』三三三二号、9月)

青木安弘「沖繩戦記録・一フット運動」

(『月刊社会党』三四二号、9月)

松本仁「性では黒人扱いの日本人—南アフリカ名譽白人」の真の意味」

(『朝日ジャーナル』一三三六号、9月)

西川 潤「転換期の中国民族政策」(『世界』四六六号、9月)

李君・孫君を囲む会「李君、孫君を郵便外務職へ—差別国籍案項撤廃の歩みと私たちの課題」(『部落解放』二二八号、9月)

《特集》「在日韓国・朝鮮人の現在」

(『東京部落解放研究』三九・四〇号、9月)

裴 重度「在日韓国・朝鮮人の歴史と現在—植民地支配—入管体制と指紋捺捺拒否の闘い」

金時鐘「本名をはばむもの—似て非なる関係に抗する言葉と教育の模索」

小沢有作「同化を拒否する教育実践—在日朝鮮人教育論」

松浦利貞「日本と韓国・朝鮮のあらたなる出会いを求めて—学校現場からの報告」

田 美佐子「(会員・読者の頁) 第九回民間連全国集會に参加して」

(資料)「(ブックリスト) 在日韓国・朝鮮人の現在を考へる本」

チカップ美恵子「アイヌの文化と歴史をさぐる(2) —レラ・コラチー風のよつに」(『新地平』一一七号、9月)

《特集》「変わる福祉行政・障害者運動」

(『福祉労働』二四号、9月)

渡辺鏡気「人権闘争に到達した全障連運動—内なるヒトラーとの対決をめざす」

福本英子「『養生予防』と成熟する人口管理装置」

久保田哲「国会からみた改正身障福祉法」

大谷 強「運動側から改正身障福祉法をみる」

角田明弘「自活寮運動の歩みと地域分室の模索—七生福祉園の施設改革」

佐野利男「共学の理論・分難の論理」

北村小夜「専従保母で働くYさん」

二日市安「ポスト・国際障害者年の運動状況は」

(資料)「本に見る障害者問題」

戸田二郎「聴覚障害者差別裁判闘争—厚見中学校放火事件」(同右)

栗田晋一・久松三二「不当解雇にみるろうあ者差別」(同右)

《南京大虐殺まぼろし説のまぼろし》

(『朝日ジャーナル』一三三九号、9月)

和多田進「デマ・ゴキウ育てた鈴木明氏取材の内幕」

洞 富雄「虐殺否定論を圧倒する旧日本兵の記録」

高崎隆治「文芸春秋が引きまくる国家権力の影」

埼玉県民部婦人対策課「婦人問題意識調査報告書」(同上、9月)

朝日新聞企画部「母と子でみる広島・長崎」(『草土文化』9月)

佐々木静子『もえる日々—わたし自身の暦』(『女・いま生きる』⑩) (ミネルヴァ書房、9月)

国立婦人教育会館「国立婦人教育会館所蔵雑誌目録」(同上、9月)

日本精神薄弱者福祉連盟「精神薄弱者問題白書 一九八四年版」(日本文化科学社、9月)

【社会啓蒙】

磯村英一「同和行政における啓蒙の展開」

(『部落解放』二二六号、7月)

《特集》「映画『部落ここに生きる』」

(『こぼる』七九号、7月)

土方 鉄「部落の過去と現在を重ねあわせて」

藤田敬一「啓蒙活動観をゆさぶる」

村上博光「社会同和教育研究の成果と課題」

(『部落問題研究』七九号、7月)

山本健慈「社会同和教育研究の到達点と課題—『社会教育における同和教育』の検討をとおして—」(同右)

岡田高明「部落解放センターとしての解放会館のあり方を求めて」(『市政研究』六七号、7月)

川内俊彦編『人権のひろは』(同和問題学習第3シリーズ①)

《特集》「アジアの民衆と日本人」(『国際交流』三八号、9月)

《I部》アジアの民衆が私たちに意味するもの

綾部恒雄「アジアの民衆と民族」

中村尚司「民衆の暮らしてアジア研究」

山際素男「貧困による疎外・豊かさによる疎外」

塩沢美代子「アジアの女子労働者が抱える諸問題」

柳川和夫「(調査報告紹介) 時間短縮、週休、年休の世界的動向—ILO総合調査より—」

(『世界の労働』三四九号、9月)

木村愛子「連載・海外婦人労働ニュース(第一〇回)—EC諸国に高まる女性のPositive actionへの関心」(同右)

《特集》「生きたのです。障害者が問う健全者の異常とは」

(『月刊地域闘争』一六五号、9月)

李 和美「思ったことを素直に」

梅田和子「存在を否定する能力主義」

藤林晋一郎「環境問題と『障害者』」

奥村一郎「奇形猿をどう受けとめる」

西 定春「施設主義が持つ限界に挑む」

鬼頭淳子「心の傷の殻を破るには」

森 廣正「ヨーロッパの移住労働者問題と国際労働運動—西ドイツを中心として」(『国際化する労働問題と社会政策』所収、啓文社、9月)

全日本自治団体労働組合「外国人登録法改正に向けて—在日外国人の人権を守ろう」(同上、9月)

〔柏原市市民部同和对策室、7月〕
奈良県民生部・同和对策課「同和奈良」〈差別をなくす強調月間特集号〉(同上、7月)

高野口町婦人同和運動実践連絡会「同和問題についての意識調査昭和58年度調査実施」(高野口町、7月)

〈特集〉「部落解放をめざす映画づくり」

〔『部落解放』二二七号、8月〕

中村 稔・森本景武・井之上綾子・有光 健「(座談会)差別を根っ子からとらえ新たな表現へ——『同和』啓発映画の現状と課題」

森本景武「映像—明日に向かっている足跡—『信濃天露伝記』制作を終えて」

前川むい「ドキュメント映画・『部落ここに生きる』をつくった」

日野範之「『部落ここに生きる』をみて」

依田義賢「部落解放と映画について」

〔資料〕「『同和』問題啓発映画リスト」

黒田 清「開け心が『怒』ならば」

〔『社会啓発情報』二〇号、8月〕

部落解放同盟中央本部「地対協」意見具申に対するわが同盟の見解」(同右)

地域改善対策協議会「今後における啓発活動のあり方について(意見具申)」(同右)

岩田直二「映画づくりの視点」(同右)

田村正男「書評『人権を守るために—広報紙づくりの手びき』」

(同右)

三浦清一郎「成人の発達と『自分自身観』」(同右)

香野貞人「連載・企業研修の課題」(同右)

西岡 智「私と部落解放運動③—生業資金獲得から支部結成へ」

(同右)

新崎博孝「地対協『意見具申』について」

〔『解放の道—理論・政策・資料版』七号、8月〕

地域改善対策協議会「資料」〈今後における啓発活動のあり方について〉(意見具申)(同右)

〈特集〉「地対協の『意見具申』と社会啓発」

〔『部落』四四八号、8月〕

東上高志「地対協の『意見具申』とこれからの社会啓発」

井上英之「社会教育からみた『意見具申』」

長谷川善計「社会啓発の問題点」

宮田一夫「社会啓発としての社会同和教育の課題」

亀田順一「住民資質の形成と労働者階級の役割」

地域改善対策協議会「資料」〈今後における啓発活動のあり方について〉(意見具申)」

成沢栄寿「地対協『意見具申』をどうとらえるか」

〔『国民融合通信』一二二号、8月〕

長谷川善計「啓発活動のあり方」を読んで」

〔『月刊部落問題』九三号、8月〕

〔資料〕「地域改善対策協議会」(同右)

「今後における啓発活動のあり方について(意見具申)」(同右)
東上高志「社会同和教育の実践」〈東上高志同和教育著作集9〉(あゆみ出版、8月)

部落解放研究所・部落解放夏期講座実行委員会「部落解放夏期講座受講者ノート」(同上、8月)

〈特集〉「マスコミと差別・人権」

〔『部落解放』二二八号、9月〕

稲葉三千男「報道と人権」

高杉晋吾「犯罪報道による報道犯罪を許すな—文化会議は犯罪記事についてこう考える」

田村正男・八木晃介「(対談) 部落問題とジャーナリストの立場」

〈取材の中から〉

波佐場清「ある体験から」

藤井昭三「八鹿高校解放放研の生徒たち」

真鍋和彦「『映画出演』の教訓」

石原 進「思うことと実際と」

高士 薫「部落問題を取材して」

鳥海美朗「しずくの水を集めて」

橋本大二郎「少しずつ部落問題を拓げていく—『人権マスコ』

「想話会」の発足に思う」

佐藤 一「『報道と人権問題懇談会』についての報告」

吉田賢作「部落問題の解決に求められるマスコミの役割」

八木晃介「〈言論・表現〉の自由と差別語問題」

元木 健「生涯教育の理念と学校教育」

〔『所報おさか』創刊号、大阪市教育センター、9月〕

仲島隆夫「同和問題に関する意識調査と市民啓発」(京都教育大学、9月)

八木晃介「現代差別イデオロギー批判—マイナス・イメージの社会学」(批評社、9月)

あけぼの広報社「人権と良心—どうしたら守れるのかいのちの尊厳と人権」(同上、9月)

長崎県部落史研究所「社会啓発資料I ながさきの「同和」問題」(同上、9月)

〔文化・思想〕

平田智恵子「おはる元気にしとるどオ」

〔『部落解放』二二六号、7月〕

〈創る—みんなで作る文化のページ〉(同右)

長谷川善計「部落問題と文化」(『部落問題研究』七九号、7月)

長谷川善計「部落問題が提起する文化的諸課題」(同右)

長谷川善計「部落問題と文化」(『部落問題論究』九号、7月)

大串夏身「部落差別と図書館」

〔『季刊としょかん批評』四号、7月〕

(文) 川元祥一・(絵) 井上洋介「創作・部落の昔ばなし—タヌキと虎吉」(『解放教育』一八二号・8月)

長谷川善計「部落問題にわたっての『文化』」

〔『部落』四四七号、8月〕

愛知松之助「部落問題とマスコミーこの一年」(同右)
立石憲利「岡山の仕事歌」仕事歌を聞いて歩いて」

〔「部落問題」五一号、8月〕

石飛 仁「現代民衆俳優考—三國連太郎の白い道」(6)「」

〔「新地平」一一六号、8月〕

栗原幸夫「文芸時評」大西巨人の『天路の奈落』を読む」

〔「新日本文学」三九卷八号、8月〕

田中克彦「批評と紹介」若手社会学者による貴重な貢献—『マ

スコミと差別語問題』

〔「朝日ジャーナル」一三三二二号、8月〕

塩見鮮一郎「どこにもない場所」

〔「新日本文学」四四三三号、8月〕

(文) 川元祥一・(絵) 井上洋介「創作・部落の昔ばなし—おじ

いさんと白ギンネ」〔「解放教育」一八三号、9月〕

八木晃介「緊急報告」現代の焚書—広島県立図書館にみる「言

論・表現の自由」の危機的様相」

〔「東京部落解放研究」三九・四〇号、9月〕

川元祥一「(新連載・小説) 幻の川を渡れ」(同右)

本田 豊「(連載) 被差別部落形成伝承譚(8)—白山様が降ってき

た町(下)—埼玉県川越市で」(同右)

『特集』「『差別用語』を考える」(「部落」四四九号、9月)

成沢栄寿「『差別用語』問題を考える—歴史研究者の立場か

ら—」

丹波正史「部落解放運動からみたいわゆる『差別語』問題」

寿岳章子「差別とことばをめぐって」

木津川計「芸能と差別」

〈「用語問題」—当事者からの発言〉

芝田進午「部落解放運動と民主主義」

小林計一郎「私の立場と考え」

高市光男「ある用語規制の体験」

森村誠一「『差別用語』私見」

丸岡忠雄「人間として—同和問題を考える—」

〔「月刊部落問題」九四号、9月〕

小林末夫「お大師さんの差別文書に思う」(同右)

石飛 仁「現代民衆俳優考—三國連太郎の白い道」(7)「」

〔「新地平」一一七号、9月〕

村田 拓「文芸時評」大道芸は民衆の表現、そして民衆の

表現とは」〔「新日本文学」四四四号、9月〕

用語問題特別取材班「拡大する放送禁句・第9弾—転換期を迎え

た『差別語料弾闘争』」〔「放送レポート」七〇号、9月〕

小林初枝「どこへまことを照らすやら—差別の中の女たち」

〔筑摩書房、9月〕

【宗教】

安達五男「部落寺院制について」

〔「部落問題研究」七九号、7月〕

鳥飼慶陽「キリスト教と部落問題」

〔「部落問題論究」九号、7月〕

ひろたまさき「坂本忠次編『神と大地のはざま』—岡山の人びと」

〈「日本民衆の歴史地域編I」(三省堂、7月)

芝 英一「部落問題との出会い」私の出発点」

〔「部落」四四八号、8月〕

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

—」〔16〕 立上る学生・インテリ」(同右)

藤谷義兼「誠実・無欲の中西をたずね」

〔「月刊部落問題」九三号、8月〕

塚本景之「中西義雄氏を偲ぶ」〔「部落問題」五一号、8月〕

岡あきら「判証記・第四部『晴雲』第四章」(同右)

鈴木裕子「部落解放と部落史研究のために」(3)「」

〔「新地平」一一六号、8月〕

小林 茂「入門被差別部落の歴史」(明石書店、8月)

大串夏身「追悼・西順蔵先生 部落差別を自らの問題として」

〔「東京部落解放研究」三九・四〇号、9月〕

林 義緒「部落問題との出会い」『部落の健康手帳』に学んだ

こと」〔「部落」四四九号、9月〕

東上高志「講座・やさしい部落問題6—II なせそこが部落なの

か 部落の歴史」(同右)

奈良市同和地区史的調査委員会「奈良の部落史 本文編」

(奈良市、1983年3月)

【前近代】

『特集』「続『国民的融合論』批判と部落史研究」

愛知松之助「部落問題とマスコミーこの一年」(同右)

立石憲利「岡山の仕事歌」仕事歌を聞いて歩いて」

石飛 仁「現代民衆俳優考—三國連太郎の白い道」(6)「」

栗原幸夫「文芸時評」大西巨人の『天路の奈落』を読む」

田中克彦「批評と紹介」若手社会学者による貴重な貢献—『マ

スコミと差別語問題』

塩見鮮一郎「どこにもない場所」

〔「新日本文学」四四三三号、8月〕

(文) 川元祥一・(絵) 井上洋介「創作・部落の昔ばなし—おじ

いさんと白ギンネ」〔「解放教育」一八三号、9月〕

八木晃介「緊急報告」現代の焚書—広島県立図書館にみる「言

論・表現の自由」の危機的様相」

〔「東京部落解放研究」三九・四〇号、9月〕

川元祥一「(新連載・小説) 幻の川を渡れ」(同右)

本田 豊「(連載) 被差別部落形成伝承譚(8)—白山様が降ってき

た町(下)—埼玉県川越市で」(同右)

『特集』「『差別用語』を考える」(「部落」四四九号、9月)

成沢栄寿「『差別用語』問題を考える—歴史研究者の立場か

ら—」

丹波正史「部落解放運動からみたいわゆる『差別語』問題」

寿岳章子「差別とことばをめぐって」

木津川計「芸能と差別」

〈「用語問題」—当事者からの発言〉

芝田進午「部落解放運動と民主主義」

小林計一郎「私の立場と考え」

高市光男「ある用語規制の体験」

森村誠一「『差別用語』私見」

丸岡忠雄「人間として—同和問題を考える—」

〔「月刊部落問題」九四号、9月〕

小林末夫「お大師さんの差別文書に思う」(同右)

石飛 仁「現代民衆俳優考—三國連太郎の白い道」(7)「」

〔「新地平」一一七号、9月〕

村田 拓「文芸時評」大道芸は民衆の表現、そして民衆の

表現とは」〔「新日本文学」四四四号、9月〕

用語問題特別取材班「拡大する放送禁句・第9弾—転換期を迎え

た『差別語料弾闘争』」〔「放送レポート」七〇号、9月〕

小林初枝「どこへまことを照らすやら—差別の中の女たち」

〔筑摩書房、9月〕

【宗教】

安達五男「部落寺院制について」

〔「部落問題研究」七九号、7月〕

鳥飼慶陽「キリスト教と部落問題」

〔「部落問題論究」九号、7月〕

ひろたまさき「坂本忠次編『神と大地のはざま』—岡山の人びと」

〈「日本民衆の歴史地域編I」(三省堂、7月)

芝 英一「部落問題との出会い」私の出発点」

〔「部落」四四八号、8月〕

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

—」〔16〕 立上る学生・インテリ」(同右)

藤谷義兼「誠実・無欲の中西をたずね」

〔「月刊部落問題」九三号、8月〕

塚本景之「中西義雄氏を偲ぶ」〔「部落問題」五一号、8月〕

岡あきら「判証記・第四部『晴雲』第四章」(同右)

鈴木裕子「部落解放と部落史研究のために」(3)「」

〔「新地平」一一六号、8月〕

小林 茂「入門被差別部落の歴史」(明石書店、8月)

大串夏身「追悼・西順蔵先生 部落差別を自らの問題として」

〔「東京部落解放研究」三九・四〇号、9月〕

林 義緒「部落問題との出会い」『部落の健康手帳』に学んだ

こと」〔「部落」四四九号、9月〕

東上高志「講座・やさしい部落問題6—II なせそこが部落なの

か 部落の歴史」(同右)

奈良市同和地区史的調査委員会「奈良の部落史 本文編」

(奈良市、1983年3月)

【前近代】

『特集』「続『国民的融合論』批判と部落史研究」

『部落解放研究』四〇号、7月
前田朋章「幕末における長州藩部落民諸隊の活躍」
生瀨克己「研究ノート・近世の儒学者における『賤民』の問
題に関する覚書」

中尾健次「研究ノート・近世大阪の部落史——研究の現状と
課題——(七)」

中野美智子・頭土倫典「美作津山藩被差別部落関係資料(1)」
(『岡山部落解放研究所紀要』二号、7月)

丹生谷哲一「中世前期における非人」

(『部落問題研究』七九号、7月)

安達五男「部落寺院制について」(同右)
のびしゅうじ「部落の生活史24—江戸初期播磨の皮商」

(『部落』四四六号、7月)

東上高志「講座・やさしい部落問題4—II なぜそこが部落なの
か 部落はどこにあるのか」(同右)

井ヶ田良治「(動向) 研究・多彩でゆたかな最近の中世身分制論
議のパノラマ—シンポジウム『中世身分制の研究状況と課題』
(同右)

塚田 孝「近世における賤民身分の人別帳に関するノート—弾左
衛門支配下の場合」
(『日本近世史論叢』下巻所収、吉川弘文館、7月)

原田伴彦編「編年差別史資料集成 第四巻 一三二一年—一五二
五年」(三一書房、7月)

吉田 清「別所往生院をたづねて」(『こべる』八〇号、8月)

丹生谷哲一「中世に生きる人びと—清目」

(同右)

高橋 啓「部落の生活史25—阿波の木偶まわしと『掃除』」
(『部落』四四八号、8月)

東上高志「講座・やさしい部落問題5—II なぜそこが部落なの
か・部落のルーツ」(同右)

のびしゅうじ「(連載4) 摂津風呂谷の歴史」
(『月刊部落問題』九三号、8月)

研究部会(前近代)「(史料解説) 座頭替女之儀御尋ニ付書上—
件」(『部落問題』五一号、8月)

阿修羅操「(本・ひろば) 豊かだった中世被差別民のエネルギー
—『京都の部落史』の編集責任者・師岡佑行氏に聞く」
(『朝日ジャーナル』一三三三三号、8月)

芝 英一「近世田辺領における穢多頭の制度とその展開」
(『くちくまの』五九号、8月)

鳥越真理子「声聞師・三党をして黒味嗜座」
(『日本史研究』二六四号、8月)

本田 豊編「(史料) 日本の賤民由来書(二)—『長吏根元并ニ秘密
巻』」(『東京部落解放研究』三九・四〇号、9月)

内田九州男「部落の生活史26—非人世界の悪人と善人」
(『部落』四四九号、9月)

井ヶ田良治「近世村落の身分構造」(国書刊行会、9月)

原田伴彦編「編年差別史資料集成 第五巻 一五二六年—一六〇
〇年」(三一書房、9月)

藤本清二郎「(史料紹介) 江戸中期、紀州日高平野における『芝
場』争論(続)—若干の補足と史料の紹介」

(『紀州経済史文化史研究所紀要』四号、1984年3月)

布引敏雄「長州藩被差別部落の成立」(『中国大名の研究』(人
国大名論集6)所収、吉川弘文館、1984年6月)

【近現代】

金子マリーティン「紡績工業における被差別部落婦人労働試論」
(『部落解放研究』四〇号、7月)

近現代史部会「大正期における都市部落の労働—生活過程につい
て」(同右)

木下重太郎・工藤皇「むかしの写真が出ています③—一九三〇年
代・大阪両国」(『部落解放』二一六号、7月)

秋定嘉和「部落史周辺(6)」(『こべる』七九号、7月)

岩井忠熊「日本近代国家と部落問題」
(『部落問題研究』七九号、7月)

竹末 勲「民権運動における『自由平権』主義の潮流と部落問
題」(同右)

小林末夫「部落問題と天皇制」(『部落問題論究』九号、7月)

米田 富「土方鉄・対談シリーズ・4—初期水平社運動の思い出
(七)」(『解放教育』一八二号、8月)

大林秀弥「(21世紀を展望して) 解放令発布をめぐって」
(『部落問題』五一号、8月)

水内俊雄「戦前大都市における貧困階層の過密居住地区とその居

住環境整備事業—昭和2年の不良住宅地区改良法をめぐって」

(『人文地理』三六巻四号、8月)

桐村彰郎「中江兆民における民衆観—『底辺・奈落・辺境』の人
々について」(『法学雑誌』三一巻一号、8月)

山下典昭・河崎章雄編『水平運動等史料集』(同上、8月)

松本健一「(部落解放誌上講座) 現代天皇制と部落差別」
(『東京部落解放研究』三九・四〇号、9月)

東京都部落解放研究会歴史部会編「(連載) 東京の近代部落史関係
史料集(九)—東京の融和運動・融和政策(四)」(同右)

本田 豊「(連載) 関東地方水平社運動の軌跡(二)—山口千代次氏
に聞く」(同右)

村上悦雄「地方における融和運動の一形態について」
(『芸術地方史研究』一四六号、1984年3月)

京都部落史研究所「京都部落史年表 近代篇IV」
(同上、1984年3月)